



古今後集
完



青木

今皇出りしと云十五日の
こゝろかたき
正清龍山と海と乃以
師亦法衣をとりて免ぬ
業主也歟ありに十と乃
高海を孫一の事其蹟
あり免て光泉精をふ



什一物乃中らる物早しとお
二五倍の身を種るとは實
と母世よりいそむるは荆山
乃璞をと琢削ふから器
おもひゆくく土器の
所一くおもふる事と
みわさくおしとありし

あふるあふるあふるあふる
さあれ今さしあふる
編集の序にあはれ
さしあふるあふるあふる
一集地とありしとありし
以ありしとありしとありし
説一とありしとありし

鼻祖の遺風は竹君の如く
多かるにきり花の毛ふさ
一人小呼し幾多きり
何事因こみしと哲人
とてしきくくくく
ありて成る免て後志
と鉄名夫別い免るる

ものゝ安る未尚の哲るる
名ありりり

文化六 巳 水月

雲嶺著

鷺白



とるをくは樂のたあし
十首のそ紙よりなり

龍山

山路新樹

あをくちねも木のきき
に養のひてゆふ養山
やまを海よりそ

飛云也

ひらきぬれを記す山

のまの結をすゝまの

けしき波

海色夏月

やまぢり 磯島の松

よけらるゝを記す

るゝ乃すゝ月記

五月雨

雲はたけふあまのけしき

かぎりなくもよほり

はこころのこころ

夏草夕露

志ありのこころのこころ

なごころもよほり

乃あまのこころ

訓讀意

之...乃...
乃...乃...
乃...乃...

乃...乃...
乃...乃...
乃...乃...

乃...乃...
乃...乃...
乃...乃...

軒後漢意

乃...乃...
乃...乃...
乃...乃...

乃...乃...
乃...乃...
乃...乃...

乃...乃...
乃...乃...
乃...乃...

別切懸

ふくかぬ人まうひ孫の

ふくかぬ人まうひ孫の

行まき抱は

様約友栞

志まのゆる本番路乃止

志まのゆる本番路乃止

志まのゆる本番路乃止

実湯祝

むすふもゆゑの栄けけ
お湯より新なるも老をぬ
くまひ成りて

享和二年五月

一とせおし山岡御所を勅録六百
とす御所を御所とせ御所を御所

あはれとせ御所を御所とせ御所を御所
御所を御所とせ御所を御所

又
御所を御所とせ御所を御所

右角徳信堂

服起百負

果更

六月やひさしるも又皆温泉の湯き

水玉のさくら山あさきす

あさき波のうき朝顔り来と

磯海とくまくすめわり

津のうき鈴子何よみ

あさき桔槔——

鷺白

菅菰

魚柵

柳水

末悉

月曜は芭いんん〜秋ハふー
 ぼろの 露 露子の 露も おもひ
 葉の 株 木 の 芽 に わき ぬりて
 尾 動 化 の 肩 を むす なる 系
 こゝ 向 子 鐘 の 岬 の わき も たり
 張 ら ぬ ち を むす なる 系 の おく
 流 石 の 安 住 の 袂 鶴 啼
 志 の ふ 踏 踏 踏 踏 も おもひ へん
 昔 化 した よ 露 露 の 露 露 も なる 系

麻 莉

和 睦

夜 雪

鯉 胎

露 曉

鳥 存

稀 星

芳 雄

知 至 七

頃 平 野 心 して 世 を せむ け せ せ
 ち 不 定 着 して 露 露 も なく
 ら 露 の なる 系 なる 系 なる 系
 金 龜 子 の 露 露 なる 系 なる 系
 露 露 の なる 系 なる 系 なる 系
 折 志 也 一 志 也 掛 人 なる 系
 波 露 露 なる 系 なる 系 なる 系
 露 露 水 露 露 なる 系 なる 系
 女 露 露 の なる 系 なる 系

夷 白

吾 体

雲 馬

宣 彦

埴 丸

湖 月

鳳 山

廣 昌

披 井

凡伸てけらう久き徴るゝ也
筆子の原さゝの秋を並つて
くはぬきしうも糸のきむら
ちさふきもの匂川さきけ
小る煙 糸たふまよあなもせん
ほらうをあててふ流籠馬
遍桶子遊せておく心き
庚申塚の風のかぶなり
撫てし塚きり桜つけらうろ

素琴 二蝶 柵 菰 白 水 悉 新 睦

わさきさめてさるぬきいハ
尼天のこゝろものねえす月のあ
いしを櫻の連歌 一 順
わさきさめてさるぬきいハ
檀の匂もてさるもねえさは
松風の約茶吹ぬきし新
ほめるきめしな裡のけふ
赤人の名を継しるふ落後さう
乃子百系をあらうとて

電 胎 曉 月 是 雄 出 夷 命

た平簫のうふふありとて舞るく
家のあふりの乃とてまふり
孫の涙もあはまき簾に色や
影ちよりの葉よ傘さす
秋のぬきつゝえても後く
夕のなみ果もさくをさ
盒も心もぬとばらひさ
二見の信をえしふこ
とうく子息わさき貝拾ふなり

塙丸山 思蝶竹 苑

おさし指をかこばさくも
わの吹ハ紙戸の空寒く
えまりの聲の氷蹴るす
入麴のこころは鼻をさす
聾後わらふさういくせし
ほろの神の世田の笛は
船影遠く和をさす
顔寒遅々の興は伝ひ
得く音呼ふよを

白 水 香 悉 荷 睛 胎 曉 雄

海棠のまもの心と葉さきより
蕙然和尚の入滅とまきく
月の寂無語の長もむくわん
菜蔓の体たのきくはり釘
静啼さきくおまの心深く
何漏れをききさしたるくむ
水鳥のさきくの水い矢のこと
何なまきくはき年はらまとも
那病の中あ静を擲出

丸 塙 早 夷 雄 公 恙 風

風きり録をたく多きくはく
権のまよ深飯もまきはなま
新魚も森のまのまのま人
おまのまのまのまのま
静啼さきく風う吹ゆ
何漏れをききさしたるくむ
水鳥のさきくの水い矢のこと
何なまきくはき年はらまとも
那病の中あ静を擲出

丸 塙 早 夷 雄 公 恙 風

物子舞のふらふら心むくく
日ハ何とまきう夜のなまき
ほき山ハまはき映山紅咲
夏露の共纏のじいさん
鶺鴒太は投う川をまはる
風名の火焚のほろくさ
小燈一は部の供養の女房
金津の綾うきまふとて
貝桶子取一まふまふ
貝桶子取一まふまふ

水 曉 新 晴 胎 牛 吾 蝶 湖

朴のむらさきを流し水仙
海もよろよりのやもよろ
猿のうすつらをうすつら
月の秋の顔多めすく
くはんか葉の重くも
印片のひまなきあま
三味線うす友もま
まなつ刻付てま
中母ふらまふ素浪の水

丸 星 丸 菟 白 冊 空 自 命

山花の戸も明鏡にまをす
 土圍兜をふき子むすふ
 貞徳のこゝろ映ひ
 文化の今も水 草のつと
 華 白 昌 土

子をばはれず新田新にふ
 正月やれくもふとももの
 籠子啼や松ハ小るを輝
 出のりやもて来ふ著
 雪の言の波も汲り 観
 さを鯉やゆく魚の子を
 学枝の人子ふ海法を
 春風よ吹流す涌き
 船よ森ふ神子も箱の
 彦 昌 魚 末 和 桺 夜 草 土
 雄 崎 柵 恙 晴 水 雪 蔬 昌

海棠に美人を巻す画子の系
 又もいなり月ハ蛙の喜のうへ
 阿比呂の人子まらふ清あゝ子
 春の月何れまたたけろ摩さし
 月夜多し梅りしや人の意もたり
 風をきし子多ハ波を過てけり
 山細や松葉をむしふ糸嵐
 庭の露風よ流んてやかくらる子
 煙多は水さしのきてくさのこを
 馬月
 稀星
 御胎
 玉山
 知不也
 空彦
 琴律
 埴丸
 夷白

ははくと洞の系や春の月
 松の文詔陽鳥も信てむすむり
 入月や書写猫の系りのり
 さ大鯨子るのふ多秋ハゆまり
 奏るよぬとて奈以しや季のそ
 紫人や蝶ともさうて斬つてく
 高橋
 女
 枝竹
 二蝶
 系考
 麻苧
 浄白

上毛中山
 小
 山
 春の啼ねむもきもつり春の月
 春喃

りこがし一思其の共そら素
 玩丸
 心若とりてこさるつりすに縁け
 楓紅
 啼珠いれとく花をふを峰のや
 冷溪
 山葉ふやすり花もふ風合ぬ
 梁石
 何着の碎を舞一冬の月
 豊心
 風子峰のきくやちりにひり
 義壽
 山保の芥や城人冬の鈴子
 蒲柙
 旅人や秋のきせのすり燧
 流水
 おもふぬ悴子載のものさふし
 倒丈

夕霧やくららのゆつめ大根川
 陳石
 雪柙の落おす日や春のこ
 屍言
 甘秋
 弱くありつるふの中のをさふく
 吾臺
 山ふり一思かよはれてのんをむる
 後院
 豊堂
 秋よせよふ花も花を麻の啼秋を
 伊智町
 一隊
 ふふさの枝のすまぬ路もな
 左園
 お梅の咲ともききり暮も三ヶ一
 吾山
 吾山
 新きのぬもふい草蒲のまよりうな
 左葉
 鳥の地をたしんしとてや秋の月
 八木根
 一魚

梅枝まをる袖をらす月夜せうの糸 詠序

星の井はちる水田の蛙も 意接

啼麻子さしむらぬふも小暮 果冥

白髪み藤よはくきし子規 庭遊

夕くもをまぐや榭の月三本木 路三

世角あさくる啼月雲の心宮崎 朔宇

をふ舟鳥の繫まきとめさりこはる石 淇水

ここのりの吹を捨てふく振をのふ 片明

人ゆのー舞の日いんふ終るふ 元二

暮多はや里よぶさしきふ不鞍 思曉

芦折交り水うきてるも木長富岳 百鹿

楢の美ふのふふこやえお表のる山名 亀菜

かときすお明の楫の音寒し 岡栞里

卯嵐の葉こもりて啼秋の音四万 寿扇

おふせなや指冠かかく蟬の音 暮翠

夢の舞うきまハ映るまき長るお橋 李雪

石印のそなをくおふと秋館言崎 文光

涼風のきく吹まふも同のふ 文水

世に流やとまり氷と人の心婦 兵水
 夜の月遷るくしよりたはもなきか 石付
 ふさしこや多しき日の石の井 井梅
 世末のまじの鞠のわがやゆ風なく 長夏
 めくふりの石の白ひも暑くつ那 素處
 川意方やゆきを流ぬの 標 事成
 うすもの 袂ぬきなり 菫子む 長和
 けし麻子月落るく山根の 禰 禰聖
 茶の早ぬつ 一をゆき 一をゆき 魯水

タうぶ子志くく二日月秋の那 凌雲
 ちほ蝶や袂の鏡のけもき日に 川遊
 三日月のまじに出るふかじか 魯水
 春の白夏の袂たよは流るり 家禰
 啼るの梅系子入る 東葵
 袂のまのまゆもふく秋のけ 磯
 浮魚のまじもふかやまの峰 一風
 涼しきいり秋たりもふたふ 喜江
 茶の早ぬつ 一をゆき 一をゆき 孤月

松風子啼音吹来ふちり、の形

松野女

梅のうき子恵にきておく月おるま

美紅女

美野女跡の森安んもや后の月

成花

秋もや新子うきなり、月の雪

車條

寒き木の枝のちかき葉の物憂さる

一畦

東りや泳ぐの鳥をたを啼

素龜

雪涼し庭田流るふ友の月

梅株

冬山や庭もあか舞の風きりね

佳菜

形影の葉子持の極まう那

連阿

鶴伝巖すこま、うきふ友の山

映楚

つらき、て峰のまきま住ぬるふ

鳳山

との山しるよ、いさ、じつわ、るふ

茅齋

落月お檜欄の中なふ、白木樸

青蒲

ふゆ帰、まむすむり、笠掛、呼

楓二

ちかふ、る、ま、灰、やく、う、る、の、月

渡竹

七夕や、移し、る、ふ、ま、す、け、竹、の、露

夜佛

よ、り、ま、りの、姿、も、又、せ、ま、啼、音、も

星川

清、や、水、う、ら、ま、さ、く、さ、夢、の、も

棠翁

大系

大系

赤坂

辰田

辰田

上宮

干役

玉村

さしもなきお子かき蛇のしづ馬 お橋 素梅
 舟仙や霞とてまゝ ちとの 忌 尻子 柏淳
 簾籠の火をらん子孫くら冬の月 サカイ 年露
 朝露凍りぬ人の情さらきふの月 白井 亀園
 梅の真やうくむすれりも唇の秋也 水沼 旭石
 木づりの吹やめい秋のぬきり 下七柄木 尺橋
 玉子ぞり玉の月夜を庭より 赤根 紫桂
 曙おさくらく山のまよ白婦 日光山 嵐夕
 鈴をよた雪の二月の糸 世 車雨

夕くほとひふものちりて忌の山 雪羅
 谷川やもやり秋のちち 大平 風山
 山すの垣根なる 壬生 明月
 海守生やふ影ふつく涼 赤田 素蝶
 乙女見うま移りて庭ふ枯枝 天の 雪子
 巖石をばく流出 天の 英子
 むく雨やそ鞠うて秋の月 足利 素明
 松風や秋寒よなり 足利 玉橋
 嶋半子のちち 足利 美手

神々山々つるふまききの日月にふ 中島

明楓の暮りかき花葉や冬の月 和井

むらさきのさしつらふもあまき 魚文

るも花一松のゆふりやわら 勇之

秋多らま二日な花とも夕 益成

花むしを散ても花の梅 兼波

三月おまきる花よ日のち 五渡

早急の夜をかきもあま 可久

そは白鷺のあまふ 五翁

益山に枕より 熊谷 官雞

あふかのや 雪江

ふの 秋江

そは 新橋 堂圃

け 本庄 一馬

あ 三浦

こ 李 子明

あ 双 馬

あ 新川 鶏秀

梅子出ず水菜ハ梅の葉まゝつる
拾葉
秋木一や風子こゝろのこゝろつる
山谷
るの芝草着きあひまきまじり
丹鳳
小籠して几中のうらをこゝろつる
木人
か片るや新くははる風上尾の標
吳末
水まらふ日を待ちらまのこゝろ
頼丈
修治あまのまゝ一くつわつ柳
川田
こくをりおせぬあやう川規
桂之
世水お梅もあふも瓶り一の
舞女

花らりら花流がまきよ秋のま
か斗
るま村や橋のつゝまの大橋む
頼子
水多の葉よ魚くも暑まゝつる
大浜
大家は風名の多らりりみるまの根
千住
戦く物やはめてま一まの山
川野
めくふりのまにまらり地の清水
吹葉
閑このまやまらむわつあまの山
桑野
燈の電はゆりまらめめ月もり
柏原
ま子このまを頼ふら電おま川茄子
浦和
世

ふしとてらへ葦の子いきてむきつふ ねて 古英
 宮中のあやとあつらん神のむす 皇子 星布
 梅子月なるむすなすおふりになり 喚く
 松子月なるむすかきむすむす 可磨
 けしりやま福いしきききき 百難
 涼しきや芦の鞘くさく浮流 斗固
 経子啼や五尺子なるぬ小松く 米二
 麻糸お月よきくらす雪の御 素履
 兎の床ふす時いきくハ 雨塘

かきこむお娘のな 古の 昔紀
 川邊のまへくま 水原 文考
 さいわいお あふ山 三冬
 風のそよと 後塔 呼童
 かい 上徳右川 雨律
 清い 枝直
 つり 白川
 山の井子 武金川 甚る
 晨明や 小川 甚明

桂舞お新三托もつふさけ
零らり風を浴らり秋の川
このうの白たもや何れ秋の空
まの人んくくも移るりり
葉の凍せまのまよくもあも
正月の陰ふ秋くのまの形
まは秋のを母まよくも水ふ
雫雲のむて唇を焦くりり
針のまのまくくまのま

常南 兀雨 恒丸 一茶 紫辰 宗讚 健和 其堂 ^{白戸} 兼美

秋まくおふお見てくくのまの
るまの日のま中日様のま
月の秋えまにるのまおねくま
庭のま月のまをほくま
ものまのまのまのまの人
山中おまもくも秋のくま
おま細や肩すり拂ふくまのま
深くくや漬まのまのま
まのまのまのまのま

鳥習 仙里 春歳 末丸 宥意 寧河 無因 貞松 鳥明

をいふし山庵の暮や白雲は

みちる

ふとみのはなをさくふゆふの月

可美誓

兼白のともゆきもはねたふ

世徳

若葉の秋のついでにふり入

蘇吹

雪のふりし山に紅葉の片つたり

淇叶

直子この席にふりこく

竹二

指葉二日のまゝや二日のまゝ

斐分

字敷くつ葉さく世ふ寒くふ

牛心

梅をのこすくはくもきこふ

完来

急ぎて葉をふりて通る

宜麦

志多流ハヒ子唐草の紅葉は

やう

春のやまの山に兼よひ

花丹

山のふりこく

柗之

の葉をさく

来蘇

葉子ぬきろめにけり

思く

うづ枯や壁も雪のふり

る全

ふゆは何よ秋多川をよ

道 吹上 鳥野

阿のうか子やほむ峰のこまりが 常阿 存阿
 わつ子子乳房のまゝや 明るるの系 眉峯 可紅
 既月の柳よはめて 志はつるあり 源末 和屋女
 口ゆて人のむと ちか 袷の系 北崎 翠兄
 ちかどしきやぶの本糸一 不たる 甲州 輝子
 ふるまきの白へふ 嫁入 袷の系 甲州 静管
 枝くのこゝろは 袷一 梅の系 甚成
 きぬくをむく せまらふ 静の系 左城
 誰のこゝろを 輪車る 礼を 秋 米義

花のふひは ぬてまゝ 咲きしつ 櫻 信坂方 深甫
 花の青や なるり 赤りて 花は入 信坂方 紫架
 ちかどし 一のえす して せふ 榎の系 信坂方 自伝
 もはこし 一のえす して せふ 榎の系 信坂方 自伝
 麦丈の 心ほむ なく なるり 花の風 万俔
 いふへや ちかどし なるり 花の風 文唄
 松風の 心ほむ なるり 花の風 若人
 月才を 何ほむ なるり 花の風 奥之
 花のこゝろ なるり 花の風 念見

入川おさくらの陰の役人

何系

油菓

まら〜秋をえせり牛の房

山平

はは午おさ子釣きふ七人歌

友志

はつとをや松のいゆ〜ハ松のを

廣孝

彌ふふく秋を懐衣の臨床る

士貞

このさ〜り扇の〜お噂の月

警固

卯稿の良は買代の月詠めり

伯先

五夏おさ〜り〜ふ秋のる

歌立

ひ〜るお〜流〜水の水

左浩

をりまのいゆ〜ふ〜

壺伯

霧〜癖の〜はく〜り〜

蕉百

鐘〜子〜あ〜山〜を〜

雲帯

〜り〜あ〜は〜ふ〜ん〜

夏二

水ゆ〜〜田やふき田や其の月

羊古

枯〜お〜楮〜後〜う〜

三机

〜ら〜る〜〜〜〜

井と

髪癖もぼ〜う〜

和月

た〜と〜〜魚心の〜やタ〜

翠百

高野のてつづき出づる葉のつる
性よくねらるるなりぬまのつる
えつるこの苗しほ小田の鳥撃し
多ね井田子苗の性啼ぼのふ
八月のるは志く終子ほりり
この山の夕葉流ん唐つる
年更て多ねのつりも村町る
ねさくしを終し唐の人の
魚の唐のつるりうめのさ
高野
榊
如も
鉄子

川舟よ人すゑふ月ねうね
多野や野の水のむろのすへ
枯くて根よし物よ風つる
梅のつるをいづるのさのつる
さあつるをいづるをぬきを
とまへいもゆき孫子のさ
師いさし子園の梅さく日新のさ
月そのさあつるをいづる
ものさあつるをいづる
高野
五明
兼中

又霜のふを吹こす月おむとつやま 山原 葉百
 大も出ぬつお休山のまきあつり 河泉
 美多のあつくりふす二月つ那 き風
 騰水に響す人うなまのる 其風
 ちは夕お休芽の色のしつ鳥 松代 杉ね
 葉の片おさおつよ露の粒あき 三主
 まなうつ就つらむ梢のう那 竹彦
 照つてさくつ子枝の頼ふくら 圃水
 ち梅子に月を花のくらもす 三生

是謂よこきさつさ即しき芙蓉つる系 筑紫 莫二
 仲夏つ魂まはりせん春の月 暮村
 梅うまや秋の清の枝木ふ流 甚化
 何物愛にききん峰峰お糸花 如鳥
 ちうお花葉のころこの山つぼく 草蓋
 山多のさかくい麻のわさふつる 几蓋
 橋まやわよりふせハ秋のくま 石葉
 ころつお信多のち方よ并登の火 定雅
 名月のちきつこゆつ一人をり 蝶後

寒くもくはる多の女なす。調きつ形 月峰
清くねやみき島はの風のきり 七卯
る長く糸ら結てさくやまの志 得終尼
啼くこへ葉こくむくほくまき 其成
さく向んぬ糸ふお川洲の秋馬 丈左
ありわりと啼や木傳ゆる 蛙 茂良
清水もをうかの聲お水く笑 僅七尼
森とえ結い糸もて傳一秋の白 五芳
呵〜あやふら〜よき〜す秋の衣 玉屑

糸庵ハ橋のかつの中の時 蒼乳
ハミサ岸のまよふまねを渡りたり 大は 駱送
水多のぬ風は破ふつり〜子 幸厚
旅の戸のつて人ふすは煙の糸 まは 可能
那月のうさねえの〜糸麻のまらな シハラ 晴宇
枯芦お水のり南のさ〜き 魚 大坂 二柳
ハ陳の橋出へまの門戸なり〜 大紅丸
梅のす〜咲もるはぬを月月秋 長富
水よ端のよ〜花終子の〜糸厚 月居

三州 阜池

囀や紙牀子うさけの露 木朶

歌の月人なきいふあははきりり 孝人

毒る囀やきさよくは化しをた 蓋畔

露葉おひさかしの山の口 季桂

寒くくやるうのはきの峰の松 尾州 曉臺

芦の穂子かへも多ふ月夜うさ 松元

此山いふうを終るり冬のを 木音

猶の意はきりくくと想のゆふ 四秋

歌きりおのくくまののみらるる花 草人

松林のかとりを落し奏の月 方明

月まろく葉まろく水の山崎東交 岳格

をを里や雲の多岐を奪うの啼 位義孝子 士朗

海え鏡いむふ言ありやまの音 柳菰

うさか取やめは捨へき岩のほそ 路人

夕暮やさくうつりよなく桂 文兆

あはりりも月夜ふりり冬のを 五什

宿るうや鞍子川燈のちいさなる 守一

不中の月さき世の空を鏡にまじり
 名月お松の才ふふ 兼のきり
 白ふ木のわきをまじり 勢と山葵を
 急きき、空のうらふ 勢もまじり
 才ふとまじりや 柳のきり 柳家
 度空一室一室一室 一室一室一室
 月涼一椀よこをまじり 宙の度
 夕度や 管絃の風も 飛波を
 深夕よ 秀ふ 不利根のみ ぼるる

希言

矢代

路因

依又

吐丈

風若

錦水

鬼笑

柯則

家副

蓋庵

水音や ぼるる 水音 水音 水音
 人の世の ぶと ねを ぼるる ぼるる 川
 呼中 ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる 川
 山陰や ぶと ぼるる ぼるる ぼるる 川
 田の ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる
 はやく ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる
 月すこく ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる
 秋ふさの ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる
 其の ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる ぼるる

夷曉

芳寧

乙掌

白毫

李桃

毫卜

古仙

左亮

杜風

別不

飯山

李桃

麻花

石村

羽崎

小市

月の夜、遊々、田舎の氷、つら、
其白 三

五月の夜も、つら、つら、つら、
海村 吉田

雨の降、はる、の、つら、の、夜、つら、
兼揚 中村

冬、腐、雪、の、起、こ、な、ふ、あ、美、の、水、
水 学

角、鹿、も、美、子、え、し、り、も、う、り、
夕 学

秋、る、に、秋、ハ、秋、ア、たり、山、の家、
夕 況

芝、ら、ふ、や、古、い、よ、ら、ら、う、は、ふ、か、ぬ、
川 保科

淡、色、も、や、秋、よ、多、く、か、ふ、南、あ、は、
耕 紫

秋、く、美、あ、や、森、ま、ら、さ、手、後、し、ま、
列 紫

白、い、心、ゆ、き、や、照、る、か、ん、ふ、し、き、の、る、
成布女

起、こ、う、る、麻、啼、こ、の、山、う、は、ら、
賀橋

そ、る、よ、ふ、も、も、啼、ん、徳、侶、何、
梅枝

二、交、交、の、紫、陽、ま、か、し、秋、の、風、
車鳥

春、を、い、き、し、る、も、う、さ、う、さ、く、夏、の、山、
山 山

急、相、の、陰、く、む、水、の、ふ、り、き、か、か、
兔園

全、風、お、ひ、遠、し、る、か、つ、り、樟、原、
井 紙

昔、舞、子、の、日、ハ、正、面、の、世、景、を、つ、ら、
井茂

浮、城、の、ち、き、流、り、や、秋、の、予、
路丈

芳き連よりらふはの割めつふ
 ぶと枝もひるよ、浅ぬ知るふ、つふ
 きてしこよ月の層をたてりり
 心ふふ、能たふめふ、女多ち
 落録の姿、いつに水、舞し
 うらふ、まらひ、ふふ、てん、お、や、の、時
 其の房をきき、既、新、子、落、ひりぬ
 秋のねも、花、水、よ、く、ふ、ふ、夕、つ、ふ
 秋のつを、き、又、く、積、ひ、細、く、花、こ、る
 宇六
 壽筆
 指方
 穉十
 斗樂
 文池
 鬼工
 鬼橋
 左琴

子の戸や夕のたさよす秋のつを
 志んーひよ、新、さ、ま、まり、ぬ、や、の、時
 志さく、や、の、く、ま、ま、の、女、や
 大家よ、寂、を、ば、き、る、ぬ、の、時
 志さく、や、新、を、ぬ、ふ、家、の、つ
 ね、お、各、よ、い、お、く、ん、ぬ、物、ら、こ、の、月
 志、強、の、う、い、の、さ、さ、る、や、何、と、ぬ
 茶、中、か、す、酒、の、り、う、き、や、花、杞、の、心
 志、一、庵、ぬ、い、ま、は、し、き、ふ、舞、の、姿
 史節
 春江
 宗思
 景山
 志乃
 桃路
 鼠江
 志乃
 志乃
 牧之

秋風よこねさぬ處やまのうし
 骨鯨のころろ 巖きて秋のつを 巖白石 二英
 床くすめ枝のつすむ枝のむんをえんて 巖白石 乙二
 きてり 長志に子ふき 寒のつね 本宮 眞こ
 妻のむささふんとねもふり子 仙玉 又芝
 黄檗へ思はせたり 栞せう郡 事ア 素郷
 庭の中 處りり 風のそよそよ 乙因
 後天井の水 鯨をほし 羽秋回 五明
 きてしとの咲とねし 甲安 嵐外

経子啼や物寄 巖せハ 成 生 傍傳 一草
 以多はくに四十をるね 角力え 出雲 就尾
 若ぼつねりの 癖えふり夕さく 乙因 忌叔
 以しふもや 糸信人ハ 海の面 岩馬 翠山
 糸ふくむきを 雲らかしくます 三河 白珠
 啼おて 椋の 尿ちふり 乾の糸 加賀 佛仙
 若りハ やし かな ちつとき 妻の 乾 斗入
 七人の ちかこし しまる 浮藻る 染衣
 むるふよ 比る ぬの 双たて 夕の すすみ 眉山

三井さも山家の体らじし躰路 舟若
 山あつ田くくくくくくくくくく 木海
 うしきききききききききききき 月庭 信木若
 小山田や日ハたりかうく啼き 芦風
 葉の急のかりきききききききき 呼友 紀事岳
 ちききのりーくくくくくくくく 女羽 千石
 子きききの時白い遠ーその月 祖風
 葛さばく月夕きききききききき 冬柱 後松
 ちききききききききききききき 官靴 後松

秋の日や宵の脚まきく風の簾 相州大政 東季
 小きききの急き着るむふ袷の形 縫家
 ちききききききききききききき 善政
 うらうらうーむきききききききき 奏鳴 原末
 捨ききききききききききききき 玉珂
 ちききききききききききききき 奏鳴 大山
 ちききききききききききききき 應記 原末
 ちききききききききききききき 叙末 原末
 ちききききききききききききき 燕石 原末

香に流しむくく語りや杉のとき
 夕こくにふく癒りや木の香 我中 一洞
 借もせん方ぬ夜の濱ろや 伊勢 橋良
 海ここの方のせりや浦涼 二曲
 何れ改や根たり 二曲
 川年の町の安よふお筑波 葦父
 洞佛よ移もふたりや終子の香 月恒
 奏るおえとりふるりの呪とり 桑戸
 栗の葉のふふや 桑戸

橋中の心むきの中や川ちりり 梅水
 うらばをさう岸路ふ毫の柱う那 梅堂
 道さよや父よりはくま 宗辰
 三尺の庭子碑の落葉 五蓮
 ねききす落るいのおふ 坡仄
 こつりよね 馬曹
 美女をさう路よ木のゆふ 銀帛
 はき 兼佩
 燈の小路を 杉蓋

恋一士のれもふやうりて石の露 明は

当山川杖喜温泉人

散りて〜ぬ里や海浜の夕 煙加賀 一舟

い〜おやおね〜ふ〜さ〜り 上羽 阿菟

り友や字をか〜も温泉の白 長

月影も骨身よ透る湯沸〜つな 豊南

山涼〜水の流〜温泉のふ〜 都山

えお〜〜〜や温泉のあ〜の秋 旭浪

夏の日を晒〜て出湯の湯津波 尾法 野城

温泉氣の衣を吟ねお〜〜 女房 百羅

湯煙を改やりよ涼〜〜 上徳 野梅

雲霧の衣を〜〜 下野 道行

いらふさをえふお〜もふ〜の心 佐徳 猿左

か〜ますすまばの夏をむすのんす 亜物

神古くお松の秋や湯のよ〜ん 秀山

名経あり月のま津の亭時色 甲斐 可都里

名月やお松ハ湯毒の〜〜 上野 師家

温泉煙のきの〜〜 江戸 慎家

中秋に新に帰るる温泉の山 周防
 名月おほい庭へて海の心 方壽
 温泉の山お木履ふきの秋の風 寧松
 湯車の米よもな洗きり 葉北
 多々のぬきの露よと葉よふ 空可
 本もよも温泉煙うりり 春造
 もくくおふき津のまよふ 菊三
 秋くよ双ふき山の 白権

追加

長きお中杉の葉の地を常川 玉打 常水
 山住がさきありありも花の中 茂昌 盈之
 年のおもえさう鶏の卵つくろん 鳥羽 兵衛
 お中よりお中牛の乳おんる月 横登 山肴
 や庭のほろ豆よこりほくちやん 柏山
 酒抄や紅葉をかきん稼人 森 孝耕
 湯室中鶴の啼きおの月 本石 徳甫
 温泉の山中はかき向ふ紅葉狩 葦外
 既云れさきれは寒し冬の月 一丸

おもむね屏風の秋を伝へりてな 流書 玄端
 程ふはの三好もはしく之お筆の風 文季
 夕葉や紅葉子向ふ人よりなは 知る 東夷
 東やま月夜うら秋花 下川田 惠光
 七閑さ中蝶お破の泥の割 和神
 程おて葉門よはるぬの南 毛也各 武九
 未拈中盤ハ何意うさひは乃答 行中 美甫
 舟留を石か麻ころや美は流 哉后 芥山

柳のもえりてより一春のまじり
 長きまじり三尺まじり四尺ま
 余もまじりたよ 正年 乃 出
 一 の 柳の白き
 一 の 柳の
 一 の 柳の

るにのまをなすもふに
もふにのまをなすもふに
千代にのまをなすもふに
十園にのまをなすもふに
のまをなすもふに
のまをなすもふに

佛徳のまをなすもふに
のまをなすもふに
のまをなすもふに
のまをなすもふに
のまをなすもふに
のまをなすもふに
のまをなすもふに
のまをなすもふに

〜国の興衰の筆一海〜
〜〜〜

金令金
田



文化六年秋刻

東都 石川游子彫
上毛 雲嶺庵藏板

77

